

絃友会便り

名渡山兼一と絃友会をご支援くださる皆様へ近況報告、
絃友会便りをお届けします。 2022.3.6 No.136

絃友会事務局・名渡山 真由美 <http://www.genyu-kai.com>



ご無沙汰いたしております・・・

稽古もイベントも自粛のコロナ渦ですが皆様ご清祥のこと
と拝察申し上げます。

今は会員一人一人とその家族の安心・安全が大切だという
名渡山会主の言いつけを守り、また楽しく集えることを心
待ちにして過ごしています。

第30回さんしんの日・RBC i ラジオ中継



第1回から川崎沖縄県人会館2階ホールで開催してきた
さんしんの日 in 絃友会は、歌や踊り・沖縄料理を楽しみな
がら150~160名がすし詰め状態で集っていましたが、新型
コロナ感染拡大のため中止していました。

さんしんの日30回の節目の今年は趣を変え客席を斜に使
い十分なソーシャルディスタンスを保ち、16時の時報でか
ちゃでい風節を演奏し、名渡山会主に代わり金城宏淳さん
がラジオインタビューを受けました。

30年前の少し前、さんしんの日を発案した上原直彦氏を
兄のように慕う名渡山会主は大いに賛同しさんしんの日 in 絃友会を開催し続けました。来年は元
の形で開催できるよう願うばかりです。RBC i ラジオ主催のさんしんの日は世界中にネットワ
ークを広げ、ラジオ生放送に加えYouTube 配信もされ大盛況に終わりました。

第8回川崎郷土・市民劇『お〜い！煙突男よ 天空百三十尺の風』のご案内

現在川崎競馬場がある場所に昔富士瓦斯紡績という会社があったそうです。昭和5年、その会社に
働く女工さんたちの解雇や低賃金に反対する争議が起き解決のめどが立たない最中、百三十尺(約
40m)の煙突の上に登り6日間に渡り待遇改善を訴えた男の話です。富士瓦斯紡績には全国から女
工さんが募集され、大正時代沖縄からもたくさんの少女たちが働きに来たことが川崎に沖縄県人が
移住した由縁だと伝えられ、「川崎の沖縄県人70年の歩み」誌にも煙突男由来記が寄稿されてい
ることなどから、その時代に川崎に暮らした沖縄県人の歴史も垣間見られるかもしれません。

多摩市民館 5月 7日(土) 14時開演 5月 8日(日) 14時開演
サンピアンかわさき 5月14日(土) 昼13時半夜18時開演 5月15日(日) 14時開演
指定席3600円(前売のみ) 自由席2900円 障がい者・学生1000円